

(ICT活用日本語教室 日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」)

「よこはまでつながる 暮らしの日本語」1月コース・2月コース 実施報告

主催：(公財)横浜市国際交流協会

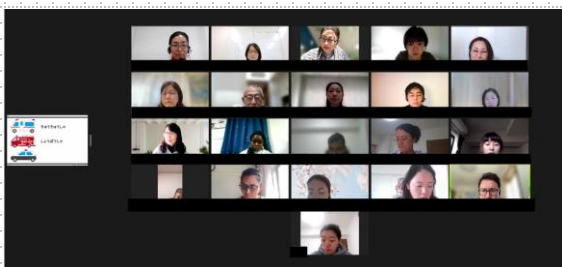
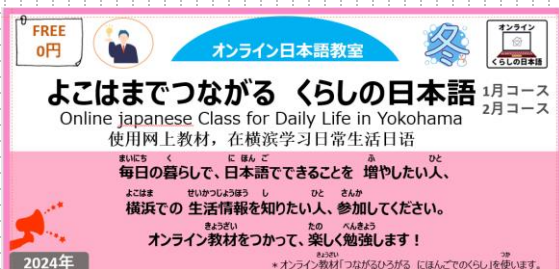
外国の方のオンラインでの日本語学習ニーズが増えています。その中で、文化庁オンライン日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」(通称「つなひろ」)を活用し、生活に役立つ日本語を学ぶ日本語教室1月コース・2月コースを実施しました。教室は「日常生活の中で、日本語のできることを増やす」を目的とし、7月コースに引き続き、サイト作成に携わった有田玲子さんを講師に迎えました。

学習テーマは、1月コースは「健康と安全」、2月コースは「買い物」としました。「つなひろ」の学習テーマに適したシーンを使って、語彙や表現、フレーズを中心に学ぶ日本語学習活動を行いました。学習者も自信を持ち、積極的に発言していました。

教室は全4回でした。内容は1回ごとに完結し、1回の参加でも学びがあるように構成しました。

地域の日本語教室で活動する日本語ボランティアの方が毎回サポーターとして参加し、学習者の「こんな場合、日本語でなんといいですか」に答えるなど、お互いに話がはずみました。サポーターは地域日本語教室での経験を活かしつつ、オンライン教材を使っでの活動を体験しました。また、活動の中でもっと工夫できそうな点を講師や他のサポーターと話し合うなど、支援の方法を学ぶ機会となりました。

教室の雰囲気から、学習者・支援者にとって楽しい教室活動だったと見受けられました。



全体活動の様子

学習者の声 (抜粋)

- ◆ とてもよかった。
- ◆ この教室で勉強する前に比べて、日本語を使ってスムーズに生活が(すこし)できるようになった。
- ◆ 生活の言葉はたくさん勉強しました。とても必要です。嬉しかったです。

タイトル

「よこはまでつながる 暮らしの日本語」
1月コース・2月コース

学習 テーマ

1月コース：健康と安全
2月コース：買い物

講師

有田玲子さん (東京にほんごネット代表)

日時

1月コース：2024年1月11日・18日・25日、2月1日
2月コース：2024年2月15日・22日・29日、3月7日
木曜日 10:00~11:30

場所

オンライン (Zoom)

参加 者数

1月コース：学習者17人 (のべ44人)
(中国8、インド3、韓国3、スイス1、セネガル1、メキシコ1)
サポーター8人(のべ23人)
2月コース：学習者13人 (のべ37人)
(中国7、インド2、韓国1、スイス1、セネガル1、メキシコ1)
サポーター8人(のべ21人)



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！



(ICT活用日本語教室 日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」)

「よこはまでつながる 暮らしの日本語」1月コース・2月コース 実施報告

教室
目標

- ✓ 毎日の暮らしで、日本語でできることを増やす
- ✓ オンライン教材を知り、オンライン教材を使用した自律的な学習へつながる

学習
テーマ

1月コース 健康と安全

- 1回目:病院受付編
- 2回目:病気予防編
- 3回目:ドラッグストア編
- 4回目:救急車を呼ぶ



2月コース 買い物

- 1回目:スーパーで買い物をする
- 2回目:試着を申し出る
- 3回目:返品・交換をする
- 4回目:お店の機能を使う

教室に
参加した人

学習者

横浜に住んでいる、横浜で働いている、横浜の学校に通っている人で、ひらがなが読めて、簡単な会話ができる人

サポーター

YOKEの支援講座に参加した方で、「学んだ日本語を使えるようになりたい・たくさん話したい」学習者へのサポートをしたい地域日本語教室の方々

生活can doを意識した活動の流れ (1月コース・1回目病院受付編を例として)

< 今回のcan do > シーンL2-8 かぜをひいたみたいです

- ・受付で初診であることを伝えて、必要な応答ができる
- ・問診票に書いてあることを理解して、分からないことを聞きながら記入することができる
- ・横浜の病院について情報を交換することができる

*「生活Can do」は、国内に在住する外国人が日常生活において、日本語で行うことが想定される言語活動を例示したもの。(文化庁HPより抜粋)

全体活動 ウォーミングアップ

まず、好きな季節について話しました。イラストを見ながら、教室活動で事前に知っておきたい語彙の確認を行いました。(例:身体の名前や症状の日本語表現など)

その後、日本の病院の仕組みや病院の種類・名称(診療所、クリニック、総合病院など)について触れ、診療科の名前および、各科の診療内容についても話しました。「つなひろ」の動画のシーン「かぜをひいたみたいです」を使って病院で使うことば・表現を学びました。

グループ活動 理解を含める

5~6人(サポーター2人、学習者3~4人)の少人数のグループに分かれ、「つなひろ」のシーンを使って理解を深めました。動画を見ながら、症状を伝えるための話し方や病院でよく使うことば・フレーズを聞いたり、リピートを行いました。また、動画視聴後は聞き取れた語彙を書いてみたり、ロールプレイを通してイメージを膨らませながら、日本語を学びました。

学習者は「これは日本語でどう言いますか」と質問したりと生の日本語に触れる機会となりました。

全体活動 振り返りと生活情報共有

最後に、今日の学習内容の振り返りを行いました。

グループ活動で話した内容、学習者の国の病院事情、日本の病院に行ったときのことを共有しました。

その後、ワークシートに「今日、何ができたようになったか、何を学んだか」を書きました。理解できなかった言葉について、後日質問する学習者もいました。

サポーターの声(抜粋)



- ◆ 毎回勉強になります。特に、このクラスはレベル分けをしていないので、授業のプランも立てにくいですが、そこがとても勉強になります。また、色々なサポーターさんのやり方も、参考になることばかりです。
- ◆ 1つのグループ内にサブのサポーターさんがいることはとても心強く、いいやり方だと思います。また、グループのメンバーが毎回違うのもこちらにとっても、学習者にとっても毎回新鮮な気持ちを持てたり、助け合うことができたり、とてもよい試みだと思います。
- ◆ 90分の授業のタイムスケジュールを把握できました。学習者が理解しやすい日本語の使い方を学ぶことができました。



よこはま日本語学習支援センター
Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!

